

## 技術提案書評価要領

## (1) 技術者評価基準

表一1 技術者評価基準

評価項目		評価の着目点			評価		
					A	B	C
配置予定技術者	管理技術者	資格要件	技術者資格	技術者資格、その専門分野の内容	技術士（農業部門－農業土木）又は技術士（建設部門－土質及び基礎、河川、砂防及び海岸・海洋）若しくは技術士（応用理学部門－地質）の資格を有する。	－	－
		専門技術力	業務執行技術力	過去の同種又は類似業務の実績の内容	同種業務の実績がある	類似業務の実績がある	同種又は類似業務の実績がない
		専任性	専任性	手持ち業務金額及び件数	－	右に該当しない	全ての手持ち業務の契約金額合計が1億円以上又は手持ち業務の件数が5件以上
	担当技術者	資格要件	技術者資格	技術者資格、その専門分野の内容	技術士（農業部門－農業土木）又は技術士（建設部門－土質及び基礎、河川、砂防及び海岸・海洋）若しくは技術士（応用理学部門－地質）の資格を有する。	技術士（左記を除く）又はRCCM（農業土木）又はRCCM（河川、砂防及び海岸・海洋）又はRCCM（地質）若しくはRCCM（土質及び基礎）の資格を有する。	左に該当しない
		専門技術力	業務執行技術力	当該部門従事期間	当該技術分野の従事期間が10年以上	当該技術分野の従事期間が5年以上10年未満	当該技術分野の従事期間が5年未満
		専任性	専任性	手持ち業務金額及び件数	－	右に該当しない	全ての手持ち業務の契約金額合計が1億円以上又は手持ち業務の件数が5件以上
	照査技術者	資格要件	技術者資格	技術者資格、その専門分野の内容	技術士資格（総合技術監理部門）の資格を有する	技術士（農業部門－農業土木）又は技術士（建設－土質及び基礎、河川、砂防及び海岸・海洋）若しくは技術士（応用理学部門－地質）の資格を有する。	左に該当しない
		専門技術力	業務執行技術力	過去の同種又は類似業務の実績の内容	同種業務の実績がある	類似業務の実績がある	同種又は類似業務の実績がない

ヒアリング (管理技術者 又は担当技 術者)	専門技術力の確認	専門技術力の 確認	実績として挙げ た業務の担当分 野に、中心的・ 主体的に参画し たことが確認で きる	左に該当しない	—
	コミュニケーション力	質問に対する 応答性	質問に対する応 答が明快かつ迅 速	左に該当しない	—
	取り組み姿勢	業務への取り 組み意欲	業務への取り組 み意欲が旺盛か つ適切な質問、 意欲表明あり	左に該当しない	—

※ 当該技術分野とは、「農業土木」に係る調査測量設計業務とする。

※ 「手持ち業務」は、契約金額が 500 万円以上の業務を対象とする。特定後未契約のものがある場合は、参考見積金額を契約金額とする。

(2) 提案内容評価基準

表－2 提案内容評価基準

評価項目	評価の着目点	評価		
		A	B	C
実施方針・ 実施フロー・ 工程表・ その他	業務の理解度	目的、条件、内容が簡潔に表現されている	左右に該当しない	目的、条件、内容が簡潔さに欠ける
	業務実施手順 (フロー・ 工程表)	業務実施手順が妥当	左右に該当しない	業務実施手順に矛盾がある
		業務量の把握が適切	左右に該当しない	業務量の把握が不適切
	その他	要請時点で示し落とした重要事項の指摘がある	－	－
特定テーマ に対する 技術等提案	的確性	地形、環境、地域特性などの与条件に整合する	左右に該当しない	与条件との整合が十分でない
		必要なキーワードが網羅されている	左右に該当しない	必要なキーワードが全く示されていない
	実現性	提案内容に説得力がある	左右に該当しない	提案内容が荒唐無稽である
		提案内容を裏付ける類似実績などが明示されている。	左右に該当しない	提案内容を裏付けが明らかでない
	独創性	工学的知見に基づく前例のない提案がある	左右に該当しない	マニュアルに準拠した内容に終始している
参考見積	－	提案内容に相応しい見積りとなっている	提示した業務規模と大きくかけ離れているか、又は、提案内容に対して見積りが不適切	

(3) 評価要領

表-3 プロポーザル評価表

評価項目		評価の着目点			配点			評価	評価の換算計算	評価点		
					項目別	複数時配分	項目別配分			項目別	複数時配分	項目別配分
配置予定技術者	管理技術者	資格要件	技術者資格及びその専門分野の内容	◎	55	30	10					
		専門技術力	同種又は類似業務の実績の内容	◎			10					
		専任性	手持ち業務の契約金額及び件数	◎			10					
	担当技術者	資格要件	技術者資格及びその専門分野の内容	○	15	5						
		専門技術力	当該分野従事期間	○		5						
		専任性	手持ち業務の契約金額及び件数	○		5						
	技術者 照査	資格要件	技術者資格及びその専門分野の内容	○	10	5						
		専門技術力	同種又は類似業務の実績の内容	○		5						
	ヒアリング	専門技術力の確認		◎	15	15	5					
質問に対する応答性		◎	5									
業務への取り組み意欲		◎	5									
実施方針 実施フロー 工程表 その他	業務の理解度	目的、条件、内容の理解	◎	25	25	10						
	実施手順	実施手順の妥当性	◎			5						
		業務量把握の妥当性	◎			5						
	その他	重要事項の指摘	◎			5						
特定テーマに 対する技術提案	的確性	与条件との整合性	◎	35	10	5						
		キーワードの網羅	◎			5						
	実現性	提案内容の説得力	◎		20	10						
		提案内容の裏付け	◎			10						
	独創性	前例のない提案	○		5	5						
合計					130							
参考見積	提案内容と見積内容の整合性		◎	/								

◎：標準評価項目

○：追加評価項目

## プロポーザル評価表記入上の注意点

- ① 各評価項目について、A、A'、B、B'、Cの5段階評価を行う。  
なお、A'は評価A、Bの間、B'は評価B、Cの間とする。
- ② 評価は5点満点とし、次のとおり配点する。  
A=5点、A'=4点、B=3点、B'=2点、C=0点  
なお、配点10の項目については、下記のとおり配点する。  
評価Aであれば  $10 \times 5/5 = 10$ 点  
評価A'であれば  $10 \times 4/5 = 8$ 点  
評価Bであれば  $10 \times 3/5 = 6$ 点  
評価B'であれば  $10 \times 2/5 = 4$ 点  
評価Cであれば  $10 \times 0/5 = 0$ 点
- ② C評価があるものは、特定しない。
- ③ 総合評価結果の最高点の事業者を特定する。但し、最高点の事業者が複数となった場合は、委員の協議により特定する。